



# 置賜の家

ストーブの薪は自分で割る  
家とともに生きる暮らし



暖房用の薪割りも一家の主の大事な仕事。その作業は余暇の楽しみにもなっている

山形県南陽市——日邸

設計——フィールドネット 一級建築士事務所

Fieldnet

撮影・文——加藤隆悦

photographs・text by Kato Ryusetsu

厳寒の地に建てた木造住宅には  
北欧製の薪ストーブがよく似合  
う。これ1台で冬も寒さ知らず





家族が住む家だから  
人に任せきりでなく  
家造りの全工程に  
深く関わりたかった

きれいな芝生の庭は隣地のぶどう畑へと続く。シックな外観の建築が環境に溶け込んでいる



広間から続く廊下は広くとってあり、全体としてゆったりとした空間を生み出している



上／客間は広間続きになっていて引き戸を取り払うと会合などにも使える広大なオープンスペースとなる  
下／ピアノ室、両親の居室へ続く広い廊下は広間の一部という位置付け



上／新築に際して憧れていた北欧製の薪ストーブを設置。冬場の暖房はこれ1台で十分まかなえる  
下／居室のドア上部には隙間を設けて風の通り道をつくっている

**山** 形県の置賜地方は、一日の気温差や年間の寒暖差が大きい盆地特有の気候風土で、どうようをはじめとした果物の生産が盛んだ。このような環境のため、新築の住宅は、断熱や湿度調節などハード面での機能性が、その後の居住者の暮らしに有形無形の影響を与える。自宅の住み替えを検討していた施主のHさんもその点を重視していたが、ハウスメーカーの建物にはどこか違和感を覚え、外材よりも国産材、それでもできれば県産材を使った在来構法の木造住宅を検討していたこともあって、同じ山形県内の金山杉の産地を訪ねてみることにした。

山形県金山町で産出する金山杉は、強靱で狂いが生じにくく、建築用材として評価が高い。また、金山杉の森林所有者の共同組織である金山町森林組合は、流通コストを抑えた産直方式を導入するなど、高品質な木造住宅づくりに積極的に取り組んでいるところだ。

ここでHさんは「木の家づくりネットワーク」代表の建築家山中文彦さんと出会い、家づくりに向けて意見交換を重ね、棟梁は地元南陽市の老練を頼み、かくして、材料供給者、建築家、棟梁、そして施主と、関わる人のすべての「お互いの顔が見える家づくり」が始まったのだ。



**古** 民家を思わせる太い2本の丸太梁と樹齢百年にもなろうという大黒柱（どちらも金山杉）が威風を放つ広間が、この家の「核」だ。

広間は南北に細長い敷地の北寄りに配置されたため、とすると室内が暗くなりがちだが、開口部を大胆に広く取り、また、ピアノ室や両親の居室につながる廊下も広間との一体感を持たせて十二分に広いものにしたため、ほどよく快適な外光が室内に差し込む。

家族のつながりを大事にしたい思いから、動線上、家族は家に帰ってきたら必ず広間を通らなければ居室に入れない構造になっている。

「もともと、よほどこの広間の居心地がいいのか、みんな、自室にいるよりも、ここでくつろいでいる時間のほうが多いくらいです（笑）」

微笑むご主人。

隣地はぶどう畑。これが借景となつて広間に憩う人の目を和ませ、また、夏場はぶどう畑からの爽やかな風が広間に吹き込み、設計段階から建物内の風の流れ道を計算に入れているので、風は建物全体にまんべん



2階廊下。2階は夫婦の寝室や子供部屋主体で落ち着いたあつる雰囲気になっている

## 同じ気候風土で育った杉の大径木が 梁や大黒柱になつて生き続ける



丸太梁が風格を感じさせる広間の天井。少しでも多く外光を取り込むため天窓を設けた



樹齢百年ほどの金山杉の大黒柱。当家のシンボリックな存在であり、構造面でも極めて重要



どこか昔の木造校舎を彷彿とさせる階段付近。木造住宅ならではの意匠に溢れている



ご主人の趣味のオーディオルーム。他の部屋にいても時折優しい音色が聴こえてくるようだ

なく行き渡る。そのため、暑く湿気が多くなりがちな盆地特有の夏の日でも、ほとんどエアコンは使ったことがないという。

降雪地であり、厳しい寒さに見舞われる冬も、この家は快適だ。ご主人が新しい家のシンボルにしたいとこだわった北欧製の薪ストーブが、広間の一隅に鎮座する。これ1台でこの広い空間を暖めるにはいささか心許ない感もあったが、開口部のペアガラスサッシ窓の断熱効果とも相まって、1階部分の暖房はこれだけで十分に事足りている。廊下やキッチンも仕切らず広間と連続性を持たせているので、ストーブのある部屋は暖かいがほかは冷え冷えしている……ということもない。夜間もストーブ内の燂で余熱が残り、冬の早朝でも寒い思いをすることはないと。このストーブにくべる薪の薪割り作業もご主人の重要な日課。なんでも人任せにするのではなく、自分でできることは自分でやるという「スロライフ」の発想がそこにある。家と住人が有機的な関係を築き得た、恵まれた邂逅だったようだ。



平成12年の新築住宅  
ながら重厚な丸太梁と  
高い吹き抜けの斜め天  
井で古民家の趣もある







薪の山、おばあちゃんの趣味の花畑、そして隣地のぶどう畑と、牧歌的な家周り

# 家に合わせた生活でなく ライフスタイルに 合わせた家が欲しかった



- 所在地／山形県南陽市
- 家族構成／父、母、夫、妻、長女、長男、次男
- 延床面積／276.52㎡  
(1階・車庫物置／174.89㎡、2階／101.63㎡)
- 竣工／2000年5月
- 設計／フィールドネット一級建築士事務所  
担当：山中文彦 TEL：03-5301-2811  
<http://www.kinoie.ne.jp/>  
[info@kinoie.ne.jp](mailto:info@kinoie.ne.jp)
- 施工／えんどう建築
- 構造・構法／木造軸組
- 主な外部仕上げ（自然素材）  
屋根／ガルバニウム塗装銅板t=0.4  
妻面／自然顔料入モルタル塗  
軒天井／杉縁甲板あらわし、外壁／自然顔料入モルタル塗
- 主な内部仕上げ（自然素材）  
天井／金山杉縁甲板無地t=10  
内壁／自然顔料入しっくい壁  
床／ナラ縁甲板t=15、塗料／自然塗料2回塗
- 工費／— 万円

広いウッドデッキをあつらえて自宅に居ながらアウトドアライフを楽しむ演出も

